

新島村議会だより

第62号
平成24年9月



平成24年第3回定例会(9月)

会期日程

第3回定例会は平成24年9月26日から28日に開催され、条例改正、他各種決算などを審査しました。

もくじ

一般質問から	2～4
研修視察報告	5
漁港大会について	6～7
議長の四季報	8
編集後記	8

Q & A 一 般 質 問

議員は「住民に代わって」村の行政全般に対して、事務の執行状況や将来の方針、計画あるいは疑問点などについて所信や疑問をただすことができます。

表紙は語る

11月10日、朝7時を過ぎた頃の若郷、渡浮根漁港内にぎわい。この日は海老網の解禁日で、前日仕掛けた網を暗いうちから出漁し数時間かけ引き上げ戻ってきたところ。

岸壁近くで網を広げ、家族、親せきの共同作業で手際よく海老を抜き取っていく。本日の収穫はどんなものか？笑顔に満ちた活気から豊漁であったにちがいない。

宇山誠二議員



答

本村地区下水道の状況は管染整備率、24年度末で約80%、処理場ポンプ場施設整備率約50%、下水道への接続率約55%で未接続者には接続促進の通知をしており、今後個別訪問等により、接続率向上に努める。

問

本村地区下水道事業の状況と接続率における今後の状況次第では、将来村財政を悪化させる要素になると思いますが、今後の対応につきお伺いする。

適切な災害情報の住民への周知について

問

防災行政無線のデジタル化工事が、24年、25年度の2か年で行われませんが、今後の防災ハード事

答

24年、25年度事業として島庁跡地の避難所整備、設計、式根島、若郷地区の防災貯水槽、小型ポンプ積載車2台の更新と今回本村備蓄倉庫設計、25年に竣工予定で防災ソフト事業は南海トラフ巨大地震に伴う巨大津波については、すみやかに高台に避難する事を基本として、すべての住民が共有し、あらゆる関

係機関、団体を通じ防災啓蒙活動を行う。

青沼進二議員



南海トラフについて村の対応は している。村は現在、徒歩と車に分けた避難ルートを地域ごとに策定中とのこと。その内容を聞きする。

問

8月29日の内閣府中 央防災会議では、南海トラフ巨大地震において 島嶼全体で1千500人の 犠牲が出、新島村は31メー トルの大津波になると想定

また村の重要な施設の移 転・建て直し等、早急な対 策が必要かと思う。村長に お聞きする。



9月10日の防災会議 で発災型津波避難訓練を行なうことが決まった。大津波警報から10〜13分、基本は徒歩、一部車両を想定する。

答

車両での避難ルートの策定は今後、警察との協議がさらに必要となる。訓練を重ね、よりよいハザードマップを作成する。

公共施設の高台への移転は、お年寄り等の住民の利用に不便を生じるので、この点をふまえて今後検討していきたい。

いじめの問題について

問

新島村の各学校に いじめがあるのかどうかお聞きする。学校にはスクールカウンセラーがいるが、その先生に相談があるのかどうかお聞きする。また教育委員会はどのよ

うな問題意識を持つてどのような対策を立て指導を考 えているのか、お聞きする。

答

7月に管内小・中学校の4校に対し、いじめに関する緊急調査を実施した。

その結果、いじめを認知した件数は小学校では1件、中学校はなし。いじめの疑いがあるとしたのは小学校では1校、2件。中学校では1件が報告されている。

いじめとされた件は既に学校で対応し解決しているが、現在慎重を期し経過観察をしている。いじめの疑いのある中学校の件は、学校全体の問題として対処し、その解決に向け鋭意継続的に対応している。スクールカウンセラーの活用は基本的に保護者、生徒本人の申し出によること



になっっている。教職員も生徒指導等の相談などに利用している。

教育委員会としては各学校との連携を密にしていじめに関する事案は隠へいするな、ささいなものでも速やかに報告するよう、と指示している。

山本均議員





この夏の観光はどうだったか？これからどうしたらいいのか？

問

昨年は東日本大震災の影響でどの島も対前年比90%程度

ひどいものだった。その分この夏にかける思いは並々ならないものがあつたわけで結果はどのようなものだったか。また今後どのようにして来島者数を増やしていくか村の全体的な対策等を教示願いたい。

答

災害発生前の22年度対比でみると、新島、式根島全体で483人増、101.69%となつてほぼ例年並みと考えてよい。

今後の観光は両島ともまず観光に携わる方が一致団結して他の観光地と競争できる態勢を作つてほしい。

村の地震、津波対策は万全か？

問

前回の回答では村は防災会議を開き、備

蓄倉庫の高台移転、避難方法等を検討したということだが、その後の進捗状況はどのようになっているか。またことしの防災訓練はどのような形で実施するか。

答

備蓄倉庫は今回設計費を計上し、来年度施工の予定。避難路、避難ルートは本村地区は6町会の班長以上の方々に集まつてもらい徒歩での確認を行なった。仮の緊急避難場所として寺ん山、観音様、宮塚山入口、瀬戸山を指定し、9月の予算に周辺の伐採経費、保育園とえびね公園の間から山に上がる道の整備を計上した。

避難訓練は発災型を行なうことにし、発災後10〜13分でのくらい避難できるか、それぞれ確認していた

だ。

村の予算執行は大丈夫か？

問

9月8日に通常国会が閉会となり、特例公債法案が審議できず廃案となった。現状では11月中旬の財源が枯渇するといふことだが、現時点で国からどのような通達が示されているのか。これに対して村はどのような対応策を考えているか、教示願いたい。

答

地方交付税の9月分の普通交付税は、市町村分は9月11日に交付されている、国庫を財源としていくつかの普通建設事業はすでに発注済で残る事業も補助金等の内示額の変更通知がないので現状の予算に基づき事業執行をしている。

研修視察報告（青森市・むつ市） ～木野部海岸～

戸 田 邦 市

5月8日青森県むつ市の「木野部海岸」を視察しました。この海岸は下北半島の中央部に位置し、一度造った護岸を撤去して、自然石の投入により磯を造るという前代未聞の工事が実施されました。これにより2006年に土木学会デザイン賞・最優秀賞を受賞しています。

ここで注目されるのは、一旦、国によって採択された事業を、住民の意見を取り入れた先進的な事業方針に転換させたことです。国の考えを改めさせるため、関係者との話し合いを何度も重ね、紆余曲折の末、ようやく実施にこぎつけました。

自然石の投入の効果は、消波や沿岸流の速度を抑え海岸侵食を防止し、あわせて磯としての機能を持たせ、サザエやアワビ、魚類などの生息場になって



います。撤去した護岸も海面の下に投入し、海岸の侵食を防ぎ養浜するという機能を保障しているそうです。


自然がもどり海産物が獲れ、地域住民の憩いの場もできて観光客も増え、いいことづくめと思いきや、近頃では漁業権、トイレ、ゴミ等の新たな問題も発生しているようです。

今回の視察で感じたことは、市職員が住民との話し合いによって昔の風景を取り戻そうとし、国や県と粘り強く交渉して、事業方針を転換させたことです。職員的情熱と弛まぬ努力がなければ成功しなかったと思いました。

～第 63 回全国漁港漁場大会参加報告～

——青森市・マエダアリーナにて——

山本 均



10月25日、青森市郊外のマエダアリーナを会場に第63回全国漁港漁場大会が開催された。これは毎年、各都道府県持ち回りで実施されていて主目的は漁業関係者の団結の元に漁業の発展、強化を図っていかうというもの。東京都からは総勢〇〇名、新島村からは私を含め4名が参加。全体では1,000名ほどでいつもより少な目ということだった。

アリーナの会場は暗く、このため中で撮った写真はすべてボツ。大会のプログラムは主催者あいさつ、来賓祝辞等を経て付議議案の「漁港・漁場・漁村・海岸整備の促進に関する件」を決議し、この後、取組事例の紹介として3件の報告があった。このうち印象に残った三重県鳥羽磯部漁協答志支所青壮年部の浜口輝満氏の発表を取り上げたい。

伊勢湾というと一般にアワビや真珠の養殖が目につかび、豊かな漁場といったイメージが強い。ところが近年、アワビなど磯根資源が著しく減少し、その原因として漁場のアラメ場の衰退があり平成17年から当地の漁協青壮年部がその造成に取り組み始めたという。

アラメ海草場の回復にはアラメの幼体を自然石に付着させ静穏域に投入し食害防止のネットを張って育成し、成長したアラメを磯に移植するというもの。投入時20センチ程度のものが1年で1メートル以上に成長し徐々にではあるが、磯焼けが解消しつつあるとのこと。

ただ、この取組は最初から順風満帆だったわけではなく、自然石が流されたり資金不足のため各自が潜水免許を取って作業に当たったりと様々な障害を乗り越えての成果であったことを静かに訴えていた。

こういった話は新島村の漁業にも大いに参考になるのではないだろうか。だから漁業関係者こそが参加すべき、そんな気がしている。特に技術的な問題というよりも取り組み姿勢、考え方は学ぶべき点があるように思う。



大会会場へ急ぐ出川村長、前田議長他。雨模様の予報だったが、運よく午前中は晴れとなった。

出川村長は東京都漁港漁場協会の会長を務めている。会場では舞台のヒナ壇に着席したが、照明が暗く撮影写真はボツとなって残念。

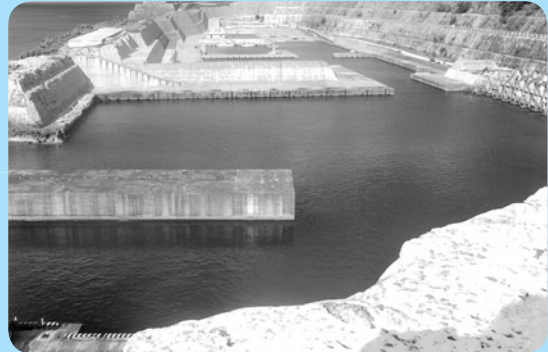
大会会場のマエダアリーナ前でポーズを決める山本一磨議員。この一風変わったアリーナの名称は市内でスーパーマーケットを展開する地元企業が命名権を買い取ったことによる。



大会終了後の午後、視察に訪れた会場から 20 キロほど離れた同じ陸奥湾内の清水川漁港での漁船の作業風景。トラックから降しているのはホタテの稚貝を取付けた網。これを沖合の定位置に据え付け育成していく。

● ● 議長 の 四 季 報 ● ●

- 6 月 1 8 日 島民祭第 1 回実行委員会
- 2 0 日 新島村シルバー人材センター定期総会に出席
- 7 月 2 日 東京都町村議長の先進地視察（5 日まで）
沖縄県南大東島の議会運営を研修し、サトウキビ畑、第 4 種大東島漁港を視察（写真右）
- 2 2 日 スポーツ祭東京実行委員会に出席（東京、2 4 日まで）
- 2 6 日 愛ランドリーグは大島大会に出席（2 8 日まで）、新島チーム優勝
- 8 月 1 日 東京都町村会と議長会合同の東京都各局への予算要望（4 日まで）
- 3 日 東京都島嶼議長会
- 7 日 島民祭第 2 回実行委員会
- 2 0 日 村長と議員の東京都及び国に対する予算要望・表敬訪問（2 2 日まで）
- 2 3 日 4 町村の議長・副議長による調布市・三鷹市・府中市の訪問（2 4 日まで）、飛行場の計器飛行の要望
- 9 月 8 日 村主催の敬老演芸会に出席
- 1 0 日 新島村防災会議
- 2 2 日 JVB サテライト新島大会に出席（2 3 日まで）
- 2 6 日 平成 24 年第 3 回定例会（2 8 日閉会）



編集 後 記

11 月 13 日に式根島の夏季観光の反省会があり、そこでゴミの問題が大きく取り上げられました。式根島の来島客は前年比 122% で 16,000 人になり、その分ゴミも沢山でました。港内のクルーザー、ヨット等のゴミ、ポイ捨てのゴミ等々。そこで要所、要所にゴミ箱を増設してはとの声が上がると、一方で、収集が困難なので予算を！との意見もありました。口グ型ゴミ箱については支所では老朽化がひどくゴミが多く溜まっているところは早急に新しくし、使用していないところは撤去することです。さらにお客様にゴミを民宿、旅館に持ち帰っていただくようお願いしては

うかというのもありました。お客様のモラルに頼る部分が大きくその通りだと思えます。

この問題は支所、観光協会、クリーン協会等と住民を含めてみんなで考えてゴミを少なくしていくことで一致しました。

先日、式根島の子供たちが先生と島内の道路脇のゴミ拾いをしていました。後で小学校の校長先生に聞きましたら、大きい袋で 3 袋あったということです。御苦労さまでした。このことを見て先ず気がついたゴミは進んで拾うことが第一歩だと思いました。

● 広報編集委員

青沼 進一